

令和3年度 さいたま市立城南中学校 自己評価書

校長 金子宜史



1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 個別最適な学びの取組、G・S、潤いの時間の実施状況
[評価項目]学校評価及び学習アンケートの結果
- (2) いじめ防止・早期発見の取組及び、いじめの事実を認識した際の適切かつ迅速対応
[評価項目]毎月のいじめ状況調査結果及び実際の対応状況
- (3) 生徒の心の状況の速やかかつ的確な把握と、状況に応じた対応及び個への寄り添い
[評価項目]学校評価と教育相談対応状況
- (4) 働き方改革の推進に係る具体的な対応策の計画・実行
[評価項目]取組の進捗状況

2 評価結果について

- (1) 「授業が楽しい」という項目では、82.1%が肯定的な評価をしている。これは、昨年度と比較すると、9.6%向上し、大きく成果を出している。また、「よい授業」の因子②のひとつであり、本校の教職員共通設定目標でもある「同じ問題を繰り返して取り組んだり、授業の途中や最後に、学習した内容が理解しているかどうか確認したりする時間をとっている」という項目では92.9%の生徒が肯定的な評価をしている。これも、多少文言が違うが昨年度の同じような質問よりも7.1%向上している。今年度も、授業力向上の取組を積極的に行ってきた成果と考える。また、G・Sでは、ALTや他学年教員とのティーム・ティーチングにより、これまで以上に個の学習段階に即した授業展開の工夫がなされた。CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）では3年生のA1以上の生徒が増加した。潤いの時間では、「相手が元気の出る話の聴き方」等を学ぶ活動を通して、上手な意思疎通の方法やI messageの伝え方を身につけた。
- (2) からかいやいじりから起因するものがあつた。早期に適切な指導・見守りを行い、現在は解消している。これからも、生徒の様子に注意を払い、些細な変化も見逃さない体制を崩さないようにする。
- (3) 「先生は、悩み事や相談に対して、親身になって応じている」では、生徒の93.1%が肯定的な評価をしており、昨年度よりも8.6%向上した。これは、教育相談部会を中心に、実態把握と問題解消に向けた検討・提示ができたことに加え、全教員が悩みや苦難に寄り添うということ心がけ、取り組んできたためと考える。しかし、今後とも生徒理解に努め、適切な支援ができるよう、組織であたっていく。
- (4) 昨年同様、職員の負担軽減を、心掛けてきた。今年度も朝の欠席連絡に安心メールを活用し、学校評価アンケートもメール機能を活用して手集計をなくした。また、ICT活用（Teamsやタブレット活用等）により、今後を見越した総合的な業務軽減が図れてきたと考える。これからも、既成概念に捉われず、業務を精査し、よりよい学校経営ができるよう努めていく。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- 学習については、個別最適な学びの取組をさらに具現化し、生徒自らの学習力と調整力の向上をねらった授業づくりが行えるよう、研究を推進し、指導力のさらなる向上を目指す。
- いじめ対策については、いじめの芽を見逃さず、全教員の目で生徒を見守り、早期発見・早期対応に努める。また積極的な生徒指導を心掛け、生徒の自己肯定感を高める教育を実践する。
- 教育相談では、教員の教育相談スキルを高め、生徒一人ひとりの心に寄り添った対応がさらにできるように努めていく。教育相談部会を中心とし、学校全体での支援体制の充実を図る。
- 教員の働き方改革の推進は、既成概念に捉われず、業務を精査し、無駄を省きながら様々な策を講じて働き方改革をすすめる、効率化を図った働き方を推奨していく。